

2019年度スーパーグローバルハイスクールWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム
構築支援事業地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）合同連絡協議会

SGH分科会① 事例発表

2756鹿児島県立甲南高等学校

令和元年6月28日（金）16:30～16:45

於：筑波大学東京キャンパス

2019年度スーパーグローバルハイスクールWWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）合同連絡協議会

2

SGH分科会① 事例発表 2756 鹿児島県立甲南高等学校



令和元年6月28日（金）16:30～16:45

於：筑波大学東京キャンパス

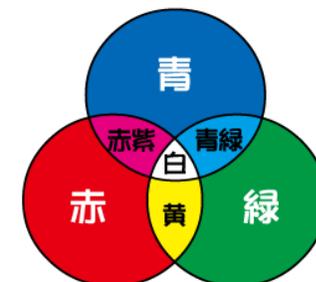
国内外で活躍する人材を輩出しています

ノーベル物理学賞受賞

青色LED開発

赤崎 勇 氏

光の三原色



構想概要



鹿児島県立甲南高等学校 SGH 概要

PLAN

地球規模でものを考え行動する21世紀薩摩スチューデントの育成



21世紀
薩摩スチューデント

人口問題に起因する諸問題の解決を目指し、国内外の事例を参考に論理的思考を用いて
地域・世界の持続可能な発展に寄与する積極的提案ができるグローバル・リーダー

DO

Wazze Konan!! - Innovation Project -

【課題研究、海外派遣事業、グローバル・スキルの向上】

メインテーマ

人口問題

サブテーマ

食 環境 ビジネス 観光

Local Global

課題研究・・・調べる まとめる 提案する
1年 国内外課題把握、事例研究
2年 ポスター発表・論文・プレゼン
3年 学会発表等



海外派遣事業・・・発表する 広げる
1年【学び台湾】フィールドワーク
2年【学びにUK】プレゼン発表

事前研修
海外研修

グローバル・スキルの向上・・・考える 協力する 発信する 伝える

授業

Active Learning
グローバル化に対応した授業

発表力

Sharing
国内外大会での課題研究発表

英語力

Communication
CEFR B1, B2

他機関との連携

東京大 鹿児島大 広島大 和歌山大 台湾蘭陽女子高 台湾師範大学 MILL HILL SCHOOL 南日本新聞社 マリアミュージカルアカミー

CHECK

- ① Can-doリストによる評価
- ② 運営指導委員会による事業評価

ACTION

- ① SGH事業の内容・運営の改善
- ② 地域トップ校として、他校への情報発信

GOAL

現在の課題を理解し、持続可能な発展に寄与する教養・実践力を持ったリーダーの輩出
国際化に重点を置くスーパーグローバル大学・海外大学への進学

W-KI

Wazze Konan!! Innovation Project「総合的な学習／探究の時間」

教科・科目との
連携

知識・教養

ディベート

ディスカッ
ション

学校行事

国内外発表会

国内外研修

課題研究

1年

課題研究
(グループ)

課題研究
中間・最終発表会

2年

課題研究
(個人)

課題研究
中間・最終発表会

3年

課題研究
論文執筆

マスターピース
発表会

外部との連携

企業・大学・公的機関等

- ・「先輩に学ぶ進路セミナー」
- ・修学旅行時の企業訪問

会社訪問

- ・アンケート 実地視察
- ・インタビュー

フィールドワーク

- ・校内課題研究発表会
- ・新聞記事作成研修会

指導 助言 評価

- ・ブラッシュアップセミナー(2年)
- ・甲南塾 ・表現力研修 等

講演・講座

平成27年度

- ・ 1年生, 2年生を対象にKIからW-KIへシフト
- ・ 台湾・イギリスへの海外派遣を開始
- ・ 広島大学大学院, 和歌山大学への生徒派遣を開始
- ・ 高校生国際シンポジウム

平成28年度

- ・ 3年生が英語で課題研究論文を執筆
- ・ 「知事と語ろう未来の鹿児島」(第1回)

平成29年度

- ・ 文部科学省から中間評価を受ける
「これまでの努力を継続することによって研究開発のねらいの達成が可能と判断される」

平成30年度

- ・ 自校職員による課題研究指導の強化
- ・ 新しい取組のスタート
 - (ア) キックスタートセミナーを開催
 - (イ) 卒業生によるパネルディスカッション開催

研究開発・実践



教育課程表

学校設定科目

Advanced English I,II

「総合的な学習/探究の時間」

W-K I

鹿児島県立甲南高等学校 2019年度教育課程表

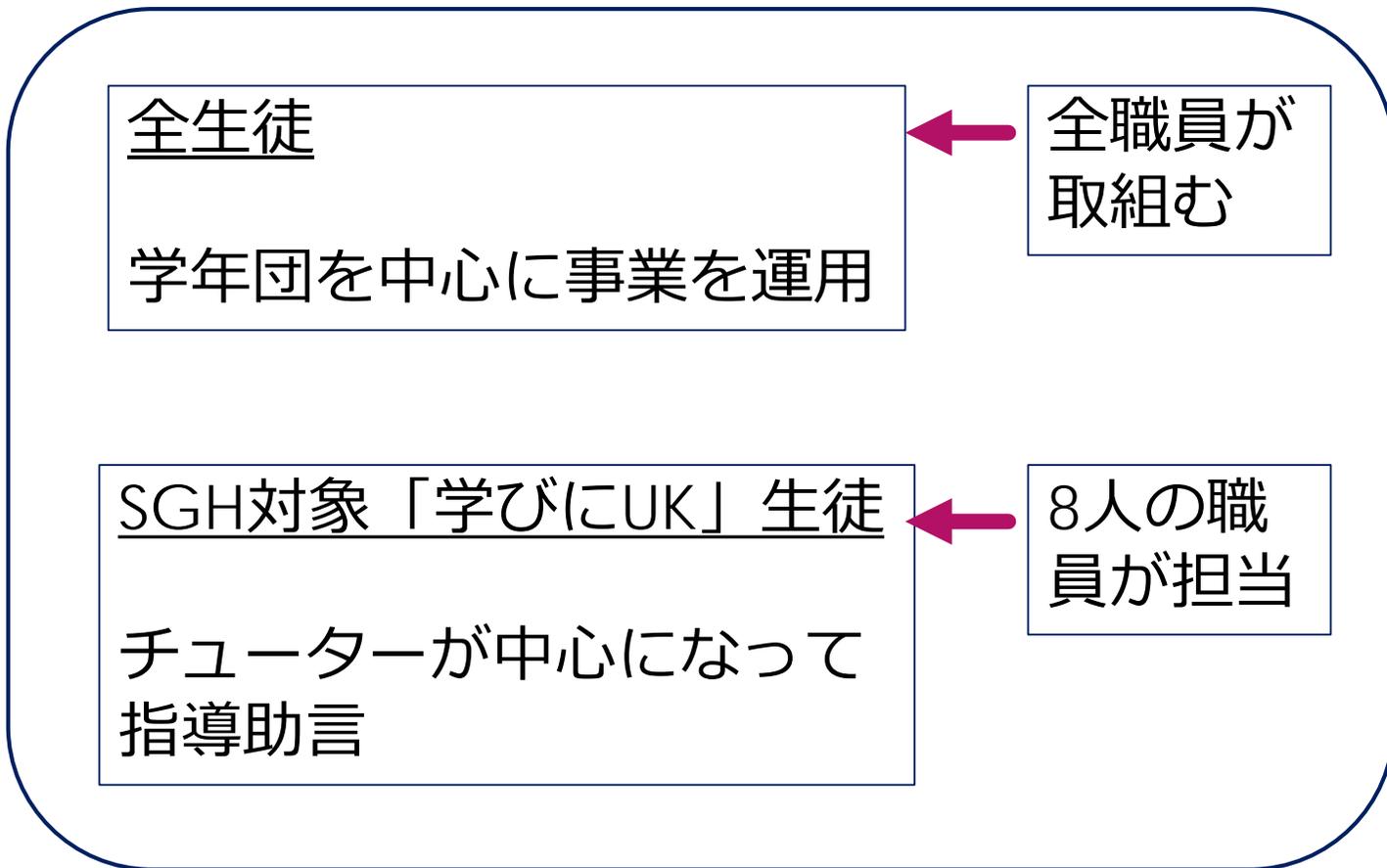
年度		2019年度								備考
学年	科目	1年	2年		3年		計			
国語	国語総合	◎4	5					5	5	
	現代文B	4		3	2	4	3	7	5	
	古典B	4		3	3	3	2	6	5	
	世界史A	●2			②				0, 2	
	世界史B	●4		4	②	④	④	4, 8	0, 6	
	日本史A	○2			②				0, 2	
	日本史B	○4		②	②	④	④	0, 6	0, 6	
	地理A	○2			②				0, 2	
	地理B	○4		②	②	④	④	0, 6	0, 6	
	現代社会	◎2	2						2	
公民	倫理	2				②		0, 2		
	政治・経済	2				②		0, 2		
	数学I	◎3	3					3	3	
	数学II	4	1	3	3	3		7	4	
数学	数学III	5		1		5		6		
	数学A	2	2			1		3	3	
	数学B	2		2	2	②	1	2, 4	3	
	物理基礎	◎2	2				①	2	2, 3	
理科	物理	4			③		④		0, 7	
	化学基礎	○2			2		①		2, 3	
	化学	4			3		4		7	
	生物基礎	◎2	2				①	2	2, 3	
	生物	4			③		④		0, 7	
	地学基礎	○2		3				3		
	*生物探究	3		1		2		3		
	*地学探究	2				2		2		
体育	体育	◎7~8	3	3	3	2	2	8	8	
	保健	◎2	1	1	1			2	2	
芸術	音楽I	○2	②					0, 2	0, 2	
	音楽II	2				②		0, 2		
	美術I	○2	②					0, 2	0, 2	
	美術II	2				②		0, 2		
	工業I	○2	②					0, 2	0, 2	
	工業II	2				②		0, 2		
	看護I	○2	②					0, 2	0, 2	
	看護II	2				②		0, 2		
外国語	コミュニケーション英語I	◎3	4					4	4	
	コミュニケーション英語II	4		5	3			5	3	
	コミュニケーション英語III	4				4	4	4	4	
	英語表現I	2	2					2	2	
外国語	*Advanced English I	2		②	②			0, 2	0, 2	
	*Advanced English II	2				②	②	0, 2	0, 2	
	家庭・家庭基礎	◎2	2					2	2	
情報	社会と情報	◎2	1	1	1			2	2	
	W-K Iプロジェクト	2		1		1		4		
その他	ホームルーム	1		1		1		3		
	適当たり総時数	35	35	35	35	35		105		

◎は必修科目、○は必修選択科目 ●は世界史Aと世界史Bの必修選択科目

W-KI（総合的な学習/探究の時間） 対象：全生徒

1年			2年			3年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
研究 テーマの 見つけ方 を学ぶ (グループ)	情報収集 分析方法 を学ぶ (グループ)	研究 テーマを 決定(グ ループ)	研究 テーマの 問いを決 める (グループ/個人)	研究の結 論を導く (グループ/個人)	研究内容 を発表す る (グループ/個人)	研究論文 執筆 (グループ/個人)	進路レ ポート 完成 (個人)	進路実現 (個人)
	校内課題 研究中間 発表大会	校内課題 研究発表 大会		校内課題 研究中間 発表大会	校内課題 研究発表 大会	3年最終 発表会		
	ポスター	新聞記事						
夏休み フィー ルド ワーク			夏休み フィー ルド ワーク					

SGH推進委員会と学年団が企画立案



大学講師や企業が協力

W-KI (総合的な学習/探究の時間) 対象: 全生徒

1年			2年			3年		
1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期
研究テーマの 見つけ方を学ぶ (グループ)	情報収集 分析方法を学ぶ (グループ)	研究テーマを 決定(グループ)	研究テーマの 問いを決める (グループ/個人)	研究の結 論を導く (グループ/個人)	研究内容 を発表する (グループ/個人)	研究論文 執筆 (グループ/個人)	進路レ ポート 完成 (個人)	進路実現 (個人)
	校内課題 研究中間 発表大会	校内課題 研究発表 大会		校内課題 研究中間 発表大会	校内課題 研究発表 大会	3年最終 発表会		
	ポスター	新聞記事						
夏休み フィールド ワーク				夏休み フィールド ワーク				

生徒はたのしんで
やっている！

発表して初めて気付
く・実感することが
ある

生徒は校内で研究発表の機会がある（5回）

研究を見せる場がある
研究を見る場がある

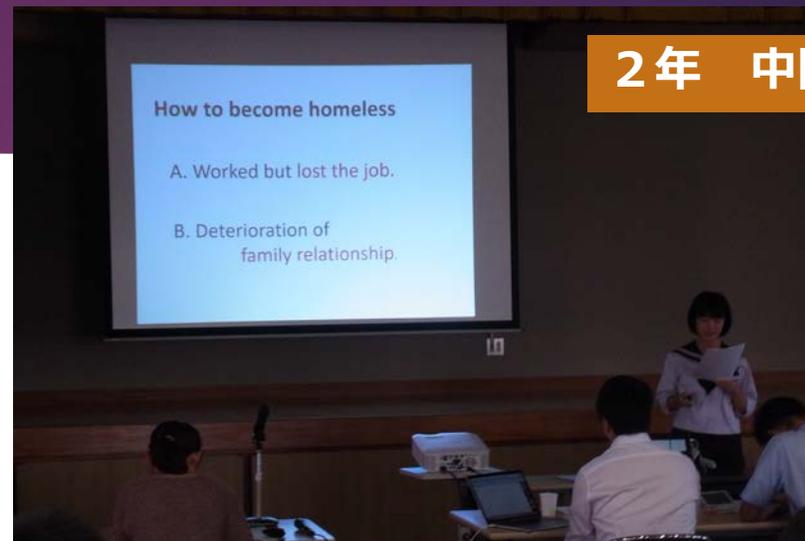
発表機会は、

- 1 自分たちの取組の振り返りの場
- 2 まとめ直しをする機会

校内課題研究発表会



1年 ポスター発表



2年 中間発表会



1年 新聞記事発表



3年 最終発表会

3年生で研究を論文形式でまとめる

Tomomi Taniguchi
Konan High School

Shortage of Toilets during Disasters

Research Question:

What is necessary for all people to be able to use sanitary toilets during disasters?

Abstract

The lack of available toilets during disasters is one of the urgent issues to be solved in Japan because it is known as a "disaster-prone country". Storage of toilets as disaster preparation items could be the key solution. Thus, this research investigated the problems of toilets during previous earthquakes and the effectiveness of storing disposable toilets in households and storage boxes next to vending machines. These measures will assist with ensuring people's health and well-being during the time of disaster.

Masterpiece

平成 30 年度優秀作品集



鹿児島県立甲南高等学校

課題研究への取組

論文形式での研究執筆

複数の発表機会

情報収集力 + 分析力 + 課題・問いを見つける力



生徒が社会（世界）の問題
に目を向け始めている

「学び台湾」概略図

1年

1学期

2学期

3学期

希望者
から
15人を
選抜

研究
テーマ
決定
(グループ)

夏季事
前研修
(グループ)

研究の継続 (グループ)

9月
台湾研修
(15人)

10月
中間発表会
(報告会)

研究のまとめ (グループ)

2月
学年発表会
(研究発表)

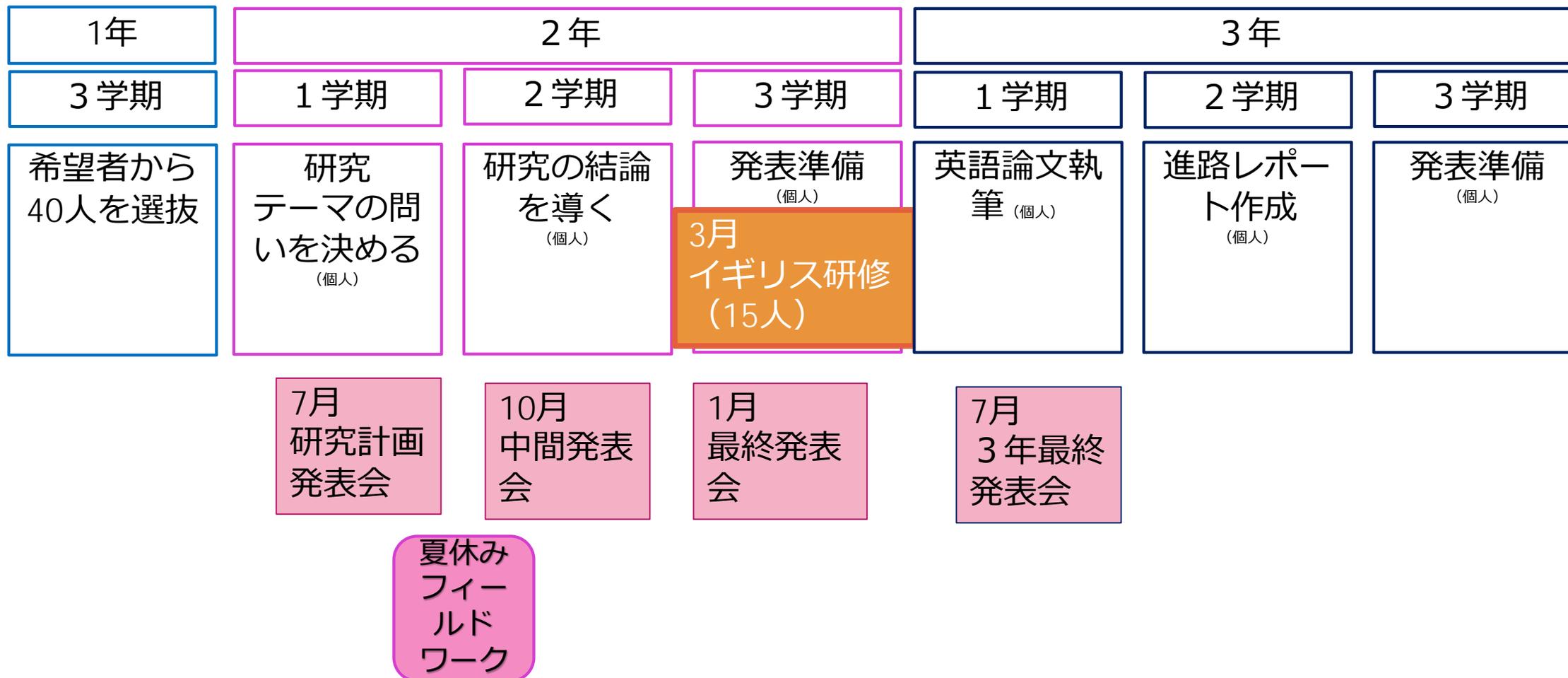
夏休み
フィー
ルド
ワーク

学校で学んだことを
試してみる機会！

台湾での発表機会（高校・大学）
＋
校内での報告会・発表会

※ 高校生国際シンポジウムにもチャレンジ

「学びにUK」概略図



苦しいこともあったが、今までの頑張りが報われる機会！

校内での3回の研究発表
+
オックスフォード、ケンブリッジでの発表

※ 残りの生徒は和歌山大学、または広島大学で発表

生徒海外派遣事業



1年 台湾研修「学び台湾」



2年 英国研修「学びにUK」

生徒国内派遣事業



2年 広島大学大学院国際協力研究科



2年 和歌山大学観光学部

学校外でのチャレンジ

- ・ 高校生国際シンポジウム (H27)
- ・ トビタテ！留学JAPAN (H28～)
- ・ 日本環境教育学会年次会ポスター発表 (H28, H30)
- ・ 第1回高校生よかアイディアコンテスト (H28)
- ・ アジア・オセアニア高校生フォーラム (H29)
- ・ 全国SGHフォーラム (H29～)
- ・ 第2回日本トイレひとと大賞 (H29)
- ・ 高校生ビジネスプラン・グランプリ (H29～)
- ・ 九州SGHフォーラム (H30～)
- ・ グローバルリンクシンガポール (H30)
- ・ かごしま政策アイディアコンテスト (H30)
- ・ 鹿児島県ビジネスプランコンテスト (H30)
- ・ SGH甲子園 (H30)
- ・ TED×NagasakiUカンファレンス (R1)

4年間の成果

課題研究を学校に根付かすことができた

ほぼ

生徒が得る能力

24

情報収集力

多面的な
視点

英語運用力

発表スキル

情報分析力

人間関係力

問題を見つ
け出す力

積極性

協働力

受容能力

主体性

批判的能力

仮説の検証

仮説1：本事業により、世界と地域が抱える様々な課題に対して主体的に向き合い、課題に対する興味・関心を抱くと同時に、解決方法を考え抜く生徒を育成できる。

【評価】

(結果) 大学での発表に耐えうる研究発表を作り上げた。

(効果) 「SGHアンケート」(対象3年生 平成31年2月実施) 項目の「主体性」「課題発見」に対して「当てはまる」、「やや当てはまる」と答えた生徒は全て8割を超え、SGH非対象の生徒との差も顕著で、課題研究の意義を理解していることがわかる。

(数字は%)		主体性		課題発見	
		1	2	8	9
質問番号					
SGH対象者	H30	91.4	89.1	91.8	83.7
	H29	87.5	92.5	87.5	72.5
(40人)	H28	85.0	87.5	90.0	82.9
その他	H30	79.0	75.9	82.6	61.6
	H29	83.4	78.2	86.1	64.7
(273人)	H28	77.9	78.1	86.6	60.2

仮説2：本事業により、グローバルスキル（＝高度な思考力・判断力・表現力）や主体性、協働する態度、リーダー性、高い英語力を備えた生徒を育成できる。

【評価】

（結果）大学入試実績、大学での発表に耐える研究発表、パネルディスカッションの成功。

（効果）パネルディスカッションに参加した教育関係者からのアンケート結果からも、グローバルスキルを備えた生徒が育まれているのが分かる。

＜アンケート抜粋＞

- SGHの学びと大学での学びが結びつく部分、広がる部分など参考になった。課題研究のレベルとまとめが「なるほど！！」と思わされた。立派な答えで、私達も勉強になった。
- 初めての試みということだったが、先輩からの生の声を聞くということは生徒達にとっても実感しやすいと思う。面白く聞かせて頂けた。大人顔負けの発表で驚いた。
- 高校での課題研究、学びにUK等の成果がきちんと出ていると思った。

（課題）問題解決能力と比べると批判的能力が低い。現状把握が十分でないため、適切な研究テーマが選べない、現状把握が十分にできていない生徒がいた。

		問題解決能力					批判的思考力				
質問番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
SGH 対象者	H30	55.0	57.5	32.5	55.0	70.0	35.0	27.5	15.0	55.0	82.5
	H29	55.0	52.5	30.0	50.0	62.5	45.0	35.0	20.0	75.0	97.5
	H28	65.2	62.5	35.0	82.5	75.0	32.5	52.5	0.0	70.0	97.5
その他	H30	60.4	60.0	36.8	66.0	61.2	34.8	39.2	18.4	76.4	90.8
	H29	57.9	53.0	29.3	54.5	58.6	36.8	38.3	19.9	66.2	92.5
	H28	51.8	51.4	30.8	64.0	66.8	31.2	37.2	17.8	74.3	95.3

仮説3：本事業により、21世紀薩摩スチューデントとして、地元を誇りを抱き、地域・世界の持続可能な発展に寄与したいと強く思う、桜島のようなどっしりと構え熱く燃える「気概」を持った生徒を育成できる。

【実践】

- ① 全生徒課題研究への取組（身近な問題からSDGsへと繋がるグローバルな視点）。
- ② 鹿児島市、関東圏、台湾でのフィールドワークの実施。
- ③ 国内外研修の実施（課題研究発表やパネルディスカッションでの発表、薩摩スチューデントの石碑視察及びレクチャーの受講、台湾訪問によるアジアの中の鹿児島の認識）。

【評価】

（結果）具体的な進路を考え、高校の3年間で学んだことを活かして、課題研究を有効に使いながらAO入試や推薦入試にチャレンジし、進路実現をしている。

和歌山大学観光学部
広島大学総合科学部、教育学部
九州大学共創学部
鹿児島大学医学部医学科
防衛大学校（既卒）

早稲田大学文学部
慶応大学商学部
中央大学法学部
明治大学法学部

仮説4：本事業により、生徒・教員の意見が変化し、本校の教育活動の変革につながる。

【実践】

- ① 全職員によるカリキュラムマネジメント職員研修の開催。
- ② 習指導法研究委員会の活動。
- ③ 全生徒が課題研究へ取り組み、発表を行う。

【評価】

(結果) 各教科の授業改革及び生徒の授業や学校行事への前向きな参加

(効果) 本校への入学を希望する生徒が増加した。

甲南高等学校出願倍率

平成31年度入試・・・1.70倍(0.90倍)

平成30年度入試・・・1.70倍(0.89倍)

平成29年度入試・・・1.42倍(0.93倍)

平成28年度入試・・・1.50倍(0.95倍)

カッコ内は県内平均倍率

1 いろんなことが当たり前になった

2 学校，生徒が良い評価をもらえている

3 「甲南サポーター」がいる

1 いろいろなことが当たり前になった

- 生徒が英語で発表，質疑応答ができる。
- 大学の先生方が頻繁にやってくる。
- 企業や組織等から協力をもらおう。
- 留学生が生徒と一緒に授業を受ける。
- 生徒が短期・長期の海外留学・研修に行く。

2 学校, 生徒が良い評価をもらえている

- メディアでの紹介
(新聞記事, TV等)
- 発表機会のオファー
(留学フェア等, 県などのイベント)
- 高校入試の高倍率

3 「甲南サポーター」がいる

- 同窓会
- 保護者
- 大学, 企業等
- そのほか

現在の課題

- ・ 評価方法の確立

事業の分析

生徒の伸びを測る

- ・ 全生徒の課題研究の質を高める指導体制

全生徒へのサポート体制

柱になる教材の開発

- ・ 持続可能な運営体制の改善

委員会, 学年団, 分掌との役割の明確化・効率化

令和元年度の 計画

34



- 1 今までの教材を一つにまとめる
生徒用教材、職員用教材それぞれにまとめる
- 2 「総合的な探究の時間」に対応した評価方法を計画する
生徒の変容が見える評価システムの研究
- 3 教科とのつながりを一層意識した計画を作成・実行する
SGH事業とW-KI, 教科との結びつけ
- 4 高校・大学・企業等との継続的な連携を探る
双方にメリットのある連携の構築
- 5 甲南高校からの発信をさらに増やす
校内発表会を公開 課題研究集の充実

管理機関としての取組について

留学への気運の高まり(県全体への波及効果)

(1) 生徒・卒業生による留学体験談発表の機会提供

県内中高生, 保護者, 指導主事等へ



(2) トビタテ！留学JAPANへの採用生徒数の増加

甲南: 平成27年～毎年採用

鹿児島県(全国採用者数における鹿児島県の割合)

2名 (全国の0.4%)

(H27/第2期)

5～8倍増加

15名 (全国の1.8%)

(R1/第5期)

(3) 留学者数の増加(鹿児島県全体及び甲南高校)

51名 (甲南6名)

(H27)

3～5倍増加

148名 (甲南31名)

(H29)

ポストSGHの 計画

38



- 1 全校生徒対象に総合的な探究の時間を活用した課題研究の継続
- 2 課題研究の発表の場としての海外派遣事業の継続
- 3 学校の外との連携の継続